

# Mac OSX用の多言語ワープロ「Mellel」使用レポート

## はじめに

従来、コンピュータにおける多言語リテラシーの王者の名を欲しいままにしてきたMacintoshも、多言語使用のニーズがインターネットへと拡大し、全世界共通の文字コードであるUnicodeへの対応をいち早く徹底させたWindows 2000が現れるにいたって、その座をWindowsに譲ることになりました。

これまでMac OS8~9でアラビア語／日本語／英語という多言語環境を享受してきた日本の中東研究者にとって、Windows XPに対抗するべきMac OSXは殆ど多言語ライターを見捨てるかのようなものでした。実際、Mac OSX(10.3) "Panther" がリリースされるまで、私も多くの人にWindowsへの乗り換えを勧めてきました。

Pantherは、ユニコードに対応した文字パレット、特殊文字やラテン外字をカバーするフォントにより、ユニコードへの対応もほぼ完全な状態を達成しつつあります。

しかし、決定的な問題として、アプリケーションがまだPantherの多言語環境に追いついていないというのが現状です。Pantherに付属のテキストエディットは、ユニコードやRTFフォーマットの読み込み／書き出しに対応したものですが、アカデミックなペーパーを書くには、やはり脚注や目次作成などの機能を備えたワープロソフトが不可欠です。

旧Macで多言語ワープロの代名詞的存在であったNisus Writerは、現在開発中であり、OSXに特化したNisus Writer Expressは、アラビア文字はおろか、脚注機能も持っていません。また、WindowsにおいてはMicrosoft Wordがユニコードに対応しているため、使い勝手がよいのですが、Mac用のMicrosoft Word Xは、基本的にユニコードに対応しておらず、その「多言語」機能はラテン文字を用いるヨーロッパ諸言語に留まっています。次にリリースされるWord 2004においても、ホームページを見る限り<sup>1</sup>おそらく多言語機能の強化は見込めません。Ergo Softの日本語ワープロEGWordも同様です。

そこで紹介するのが、RedleX(<http://www.redlers.com/>)のワープロソフト、Mellelです。セム系言語に強そうな名前ですが、RedleXはテル・アヴィヴ（イスラエル）

---

1. <http://www.microsoft.com/japan/mac/office/office2004.asp?pid=office2004wn>

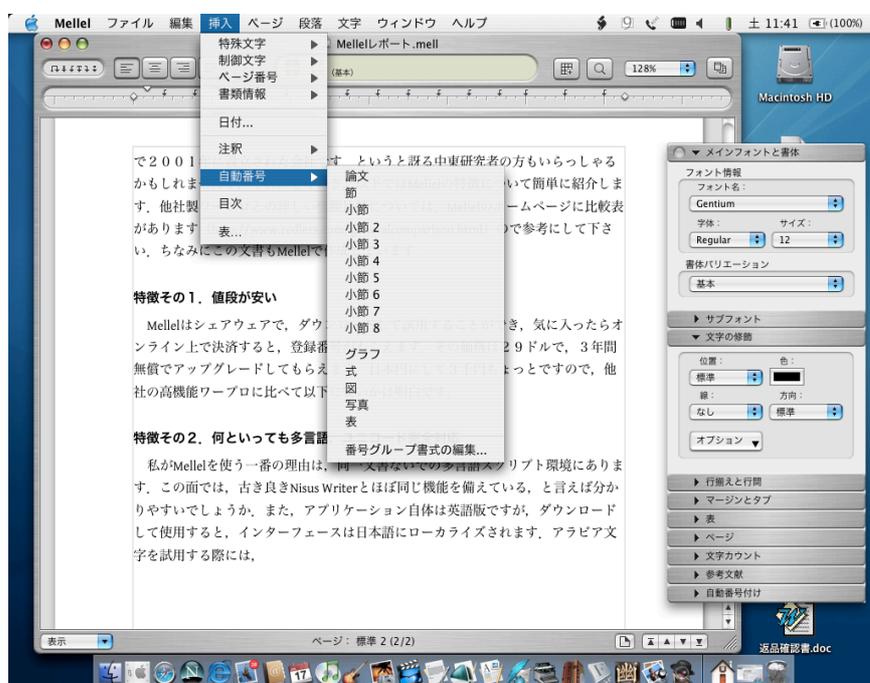
で2001年に設立された会社です。というと訝る中東研究者の方もいらっしゃるかもしれませんが、それはさておき、以下ではMellelの特徴について簡単に紹介します。他社製ワープロとの詳しい機能比較については、Mellelのホームページに比較表があります (<http://www.redlers.com/generalcomparison.html>) ので参考にして下さい。ちなみにこの文書もMellelで作成しています。

## 特徴その1. 値段が安い

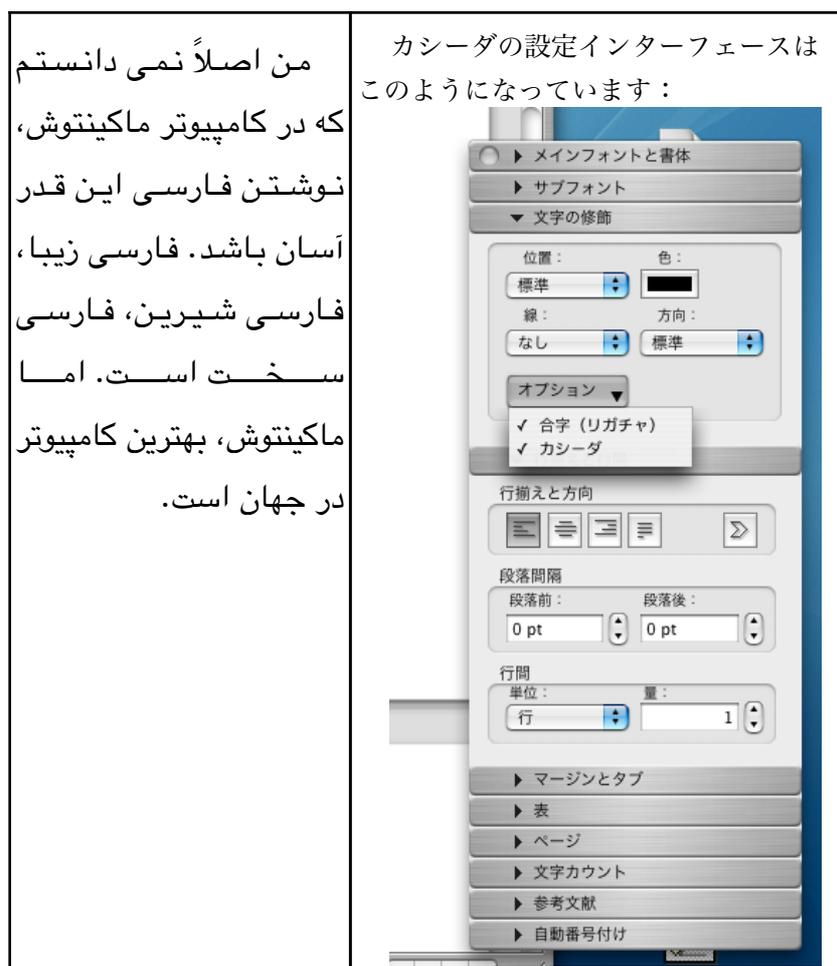
Mellelはシェアウェアで、ダウンロードして試用することができ、気に入ったらオンライン上で決済すると、登録番号がもらえます。その価格は29ドルで、3年間無償でアップグレードしてもらえます。日本円にして3千円ちょっとですので、他社の高機能ワープロに比べて以下に安いかは明白です。

## 特徴その2. 何ととっても多言語、ユニコード完全対応

私がMellelを使う一番の理由は、同一文書ないでの多言語スクリプト環境にあります。この面では、古き良きNisus Writerとほぼ同じ機能を備えている、とえば分かりやすいでしょうか。また、アプリケーション自体は英語版ですが、ダウンロードして使用すると、インターフェースは日本語にローカライズされます。



アラビア文字を試用する際には、カシーダ機能が役に立ちます。カシーダというのはペルシア語のケシーデکشیهのことです。行揃えを「幅揃え」にしてアラビア語の文章を打てば、自動的にタトゥール（文字を引き伸ばすための線）を挿入して、単語の長さを調節してくれます。次の例のように、6行目に収まりきれないماکینتوشという長い単語は7行目に送られ、6行目を3つの単語で行の幅に合わせるため、単語が引き伸ばされています。



### 特徴その3. スタイル優先

Mellelの最大の特徴は、スタイル設定を優先させるということです。スタイルにはページスタイル、段落スタイル、文字スタイルがあり、それぞれにグローバルスタイルとドキュメントスタイルがあります。通常のワープロのように、文字ごとに

フォントや大きさを変えたりすることもできますが、予め使用するフォントや文字修飾の組み合わせをスタイルとして設定しておく、段落スタイルを選択したときに、一括して登録しておいたスタイルに変換されるので便利です。しかし、これには慣れるのに少し時間がかかるかもしれません。

#### **特徴その4. ほかにいろいろなあります。**

Mellelは多言語機能以外にも、脚注の多元的自動番号づけや、章番号の自動化と目次作成など、色々な機能を持っています。例えば本文の脚注と別に訳者注をつけることもできますし、目次を作成（本文の任意の場所に挿入）すると、目次の分の紙幅を計算してページ数を書き出してくれます。リッチテキストの読み込みと書き出しにも対応しています。ただし、Nisus Writerで作った書類をリッチテキスト形式で保存して、Mellelで読み込んでうまく表示されませんでした。Mellelで作成したアラビア文字日本語混合書類（脚注つき）を、リッチテキスト形式で保存し、Windows 2000で開くと、ほぼ完全の状態で開くことができました。

その他の機能の詳細については、ホームページからダウンロードできるマニュアル「Mellel Guide」（英語版、PDFファイル）をごらんください。

#### **特徴その5.**

ここで少し、欠点についても書いておきます。Mellelは外国のソフトウェアですので、当然ながら日本語特有の機能についてはルビを振る、傍点をつけるなどの機能がありません。禁則処理については、見たところ問題はないようですが、禁則文字を独自に設定することはできないようです。

さて、色々と書きましたが、何しろダウンロードは無料ですので、一度使って見ることをお勧めします。